

精神保健論の授業にポートフォリオを 導入した学習成果の検討

清水恵子¹⁾ 渥美一恵¹⁾ 山田光子¹⁾ 野澤由美¹⁾

要 旨

本研究の目的は精神保健論の授業に導入したポートフォリオ(以下、PF)の学習成果の検討である。対象は2010年度前期2年次で同科目を履修した学生のうち、研究協力に文書同意が得られた30名であった。データ収集方法は、科目終了時に作成した「自己成長報告書」の授業を通して成長したと思う内容、PFの中で最も価値がある資料とその理由で、質的に分析した。結果は有効回答26名であった。授業を通して成長したと思う学習成果は、「知識・理解」6カテゴリー、「思考・技能・実践」11カテゴリー、「態度・志向性」6カテゴリーであった。PFの中で最も価値がある資料の上位は、《身近な人のメンタルヘルスの向上の提案書》8件、《日々の授業記録》7件、《プロセスレコード》5件であった。

これらは、PFの6つの価値のうち「コンピテンシー(行動化を伴う能力)の育成と評価に役立つ」、「『成長』の可視化ができる」、「『思考パターン』が理解できる」に該当した。

キーワード：精神保健論の授業 ポートフォリオ 学習成果

1. 研究の背景と目的

本学部では、臨地実習において、学生一人ひとりが体験した看護実践を自己評価する能力を育てることが看護実践能力の向上には不可欠であるとの見解から、学習プロセスを重視し学習を通して成長した自己を可視化できるポートフォリオ¹⁾を、平成19年度から2年次臨地実習より導入してきた。

ポートフォリオを講義や演習に取り入れた先行研究では、安川²⁾が4年次を対象に看護学原論Ⅱでグループ単位の演習でポートフォリオ評価に取り組み、学生の「自己の成長報告書」の記述より手ごたえを実感し、さらに今後の課題について時間の確保、評価基準の設定、学生への援助をあげ、学生のポートフォリオの成果物に対する教師のものの見方が問われることを強調している。宮崎ら³⁾はPBL・テュートリアル教育の臨床看護学Ⅱ「がん」にポートフォリオシートを導入し、シートへの記述内容から学習成果を検討し、学生はポートフォリオを俯瞰す

ることで、学生自身のメタ認知活動を促進する効果を示唆している。岩田⁴⁾も、PBL・テュートリアル学習にポートフォリオシートを活用し、記述内容の分析からポートフォリオの評価機能である自己評価、再構築、活動への動機づけを成果として再確認している。前田ら⁵⁾は精神看護学の授業にポートフォリオを用いており、「ライフサイクルと危機的状況」のグループワークでの学習成果を明らかにするためにアンケート、発表内容、ポートフォリオを分析し、ポートフォリオの作成と研究のスキル形成との関連について報告している。

筆者らが担当する精神保健論(以下、本授業)は、2年次前期の開講科目で30時間15コマ、2単位である。本授業に平成21年度よりポートフォリオを導入し、学生には科目の「ゴールシート」(資料1)、毎回の授業ごと「日々の授業記録」(資料2)、最終的に「自己成長報告書」(資料3)を作成することを課している。「日々の授業記録」とは、学生が日々の授業に目標を持って参加し、

(所 属)

1) 山梨県立大学看護学部 精神看護学領域

授業での学習を記述し、授業を通して学んだことを振り返り自己評価するシートである。「自己成長報告書」とは、本授業終了時に学習プロセスを俯瞰して、自己の成長を言語化するためのシートである。

そこで、看護実践能力の向上の一環として、また学習プロセスを重視し主体的な学びを助長させることをねらいとして、導入したポートフォリオの学習成果について、本授業終了時に作成した「自己成長報告書」を分析し検討することとした。

2. 研究方法

1) 対象者

2010年度2年次前期に「精神保健論」を履修した学生97名のうち研究協力に同意が得られた学生

2) 募集方法

(1) 2011年4月12日、3年次になった対象者を対象に、研究協力に関する説明会を開催した。

(2) 説明会では文書を配布して説明し、研究に協力する人には同意書欄に署名を依頼した。

(3) 署名した同意書は鍵のかかる事務室ボックスに提出を依頼した。

3) データ収集期間

2011年4月12日～同年4月28日

4) データ収集方法

研究協力に同意が得られた学生には作成したポートフォリオを研究代表者の研究室に提出を依頼し、その中の「自己成長報告書」の記述内容をデータとした。

「自己成長報告書」の記述内容は、①授業を受け健康や看護についての考え方の変化、②授業で得たことの普段の生活や活動、今後の学習への活用の仕方、③授業を通して成長したと思う内容(考え方の変化、成長したこと、身につけた能力など)を3つ、④ポートフォリオの中で最も価値があるものとその理由で、構成されていた。

5) データの分析方法

「自己成長報告書」①については、記述内容から「健康や看護についての考え方の変化」に関する文脈を抽出し、意味内容を損じないように吟味し、抽象度を上げてコード化した。生成したコードは類似性・差異性で整理し、さらに抽象度を上げてカテゴリー化した。

②についても、記述内容から「普段の生活や活動、今後の学習への活用の仕方」に関する文脈を抽出し、意味内容を損じないように吟味し、抽象度を上げてコード化した。生成したコードは類似性・差異性で整理し、さらに抽象度を上げてカテゴリー化した。

③については、まず記述内容を本学部の教育の到達目標別観点(“知識・理解”、“思考・技能・実践”、“態度・志向性”)に合わせて分類した。次に、それぞれの記述内容は学習成果として意味内容を損じないように吟味し、抽象度を上げてコード化した。生成したコードは類似性・差異性で整理し、さらに抽象度を上げてカテゴリー化した。

④については、学生の記述からポートフォリオの中の資料ごとに分類した。理由については、意味内容を吟味してコード化し、類似性・差異性で整理し、抽象度を上げてカテゴリー化した。

①～④の分析にあたっては、精神看護学領域の複数の共同研究者で吟味し検討した。また、結果の考察にあたっては、鈴木の「ポートフォリオの特徴とその価値」¹⁾の6項目(目標到達を叶える、数量化できない評価ができる、コンピテンシー(行動化を伴う能力)の育成と評価に役立つ、「成長」の可視化ができる、専門分野を体系化できる、「思考パターン」が理解できる)を参考にした。

6) 倫理的配慮

(1) 対象となる人の人権の擁護への配慮

対象者には、成績に影響しないことを約束し、自由意思で研究に協力できるようにした。例え、同意した後でも、辞退することができるようにする。そのために、対象者の募集の

時期を精神保健論の成績確認後でかつ関連する精神看護学実習Ⅰの成績確認後とした。

また、研究成果を発表したり報告したり、また論文として投稿する際に、対象者の名前が特定されないことを約束した。

(2) 対象となる人の理解や同意を得る方法への配慮

対象者の募集にあたっては説明会を開催し、自由意思で参加するよう案内した。説明会では、よりよい授業づくりに取り組む教師の目的を分かり易く説明する。研究協力できる人には、同意書欄に署名し、所定のボックスに提出を依頼した。

(3) 対象となる人への不利益と危険性への配慮

研究への協力の有無が成績に影響しないことは文書においても説明し約束した。対象者から預かったポートフォリオは「自己成長報告書」は破損することのないよう厳重に管理し、研究終了後に個別郵送し返却することとした。

なお、本研究は、平成 22 年度に山梨県立大学看護学部・看護学研究科研究倫理委員会の承認を受けて実施した。

3. 結果

研究協力で同意が得られた学生は 30 名 (30.9%)であった。うち、ポートフォリオの提出

ならびに自己成長報告書の記載があった学生は 26 名であった。本稿では、③授業を通して成長したと思う学習成果(考え方の変化、成長したこと、身につけた能力など)、④ポートフォリオの中で最も価値があるものとその理由について報告した。

以下、本稿において、カテゴリーを[]で、分類を《 》で示した。

1) 授業を通して成長したと思う学習成果

学生の記述を吟味しコード化したところ 78 個のコードが生成された。“知識・理解”に関する学習成果は 15 コード、6 カテゴリーが生成された(表 1)。“思考・技能・実践”に関する学習成果は 48 コード、11 カテゴリーが生成された(表 2-1・表 2-2)。“態度・志向性”に関する学習成果は 15 コード、6 カテゴリーが生成された(表 3)。

(1) “知識・理解”に関する学習成果

“知識・理解”に関する学習成果の 6 カテゴリーは表 1 の通りで、[精神的健康の考え方・心の病の予防についての理解]、[メンタルヘルスの課題についての理解]、[災害援助者のストレスと重症化を予防する対処法の理解]、[自殺問題の背景・自殺願望がある人の心理・自殺予防の援助方法の理解]、[相互作用を考慮したコミュニケーション能力の大切さ]、[看護師の対応の仕方・考え方の理解]であった。

表1 知識・理解に関する学習成果

カテゴリー	コード
精神的健康の考え方・心の病の予防についての理解	明るいだけでなく悲しいことも、悩んでいても解決しようとするなど、心の健康を幅広くとらえる
	喜怒哀楽が豊かなことは精神的に健康である
	精神的健康は“楽しめる”だけでなく“悲しむ”ことができることも含まれる
	心の病は予防でき、予防することが大切だ
メンタルヘルスの課題についての理解	精神の健康や病気などの知識が身についた
	メンタルヘルスの課題はいつでも起こりうるし、ストレスも幸せな時や辛い時でもいつも存在する
災害援助者のストレスと重症化を予防する対処法の理解	メンタルヘルスに関する知識が増えた
	災害時に現場に派遣された医療従事者もストレスを受けるので、お互いに気づいたり語り合うことで重症化を予防する
自殺問題の背景・自殺願望がある人の心理・自殺予防の援助方法の理解	被災者側だけでなく援助者側もストレスを受けて障害をひきおこしてしまうということを知った
	自殺問題の背景には精神面での問題があることから精神的な健康を考えたことが大切さ
	自殺をしたい人の気持ちやそのような人がいたときの対処法などを学習した
相互作用を考慮したコミュニケーション能力の大切さ	悩みは1人でかかえず打ち明ける
	「相手の思いを聴く」コミュニケーション能力の大切さが分かった
看護師の対応の仕方・考え方の理解	自分の言動の相手への影響を考慮したコミュニケーション能力
	看護師の患者さんへの対応の仕方、その考え方を学ぶことができた

表2-1 思考・技能・実践に関する学習成果

カテゴリー	コード
精神的健康について自分なりの考え	心の健康に対する自分なりの考えを確立した
	“精神的健康”について、素直に楽しい、嬉しい、悲しいと感じ、ありのままの自分でいられる状態であるという考えに変わった
	精神的健康について自分なりの考えをもつことができた
身につけた自分なりのストレス対処法	自分なりのストレス対処法を実行している
	心の病を予防するための予防法を多く身につけた
	自分が嫌だと感じている気持ちを違う事をしたり、しょうがないことだと割り切ることでストレスをためなくなった
メンタルヘルス向上の改善策についての考え	対象者の情報を集め、分析し、その人に必要なメンタルヘルスを向上させる方法を考えられるようになった
	メンタルヘルスの向上のアセスメントからアプローチまでの実際を経験し一連の流れをつかめた
	身近な人に提案書を作成し、改めて説明することで、真面目に考えてもらうきっかけとなった
	身近な人のためにメンタルヘルスの向上の改善策を考えることができた
	対象に合わせてメンタルヘルスを向上の方法を考えることができた
自殺願望がある人への具体的な対処方法	自殺願望がある人、不安を抱えている人に対して、自分にできることを考えられるようになった
	誰かに相談を受けた際、自身の力で解決にならない場合は、専門家や相談所を紹介する
プロセスレコーを活用して対象者の思いに気づいたり自分の傾向を客観的に見直すこと	プロセスレコードを活用して自分の行動を振り返る
	会話中、相手の気持ちを自分の気持ちで考えるようになった
	ロールプレイで対象者の思いに気づいたり、自分の想いや考えをうまく伝えるということは大切なことだと改めて気づいた
	プロセスレコードに記すことで自分のコミュニケーションのクセ・特徴を客観的に見つけ直すことが出来るようになった
	プロセスレコードを書いて、自分の関わりを振り返り、自分の傾向を知り、今後の関わりに生かしたい
	自分のコミュニケーションの欠点をプロセスレコードで振り返ることができた
相手の立場になって相手の思いを考える力	相手の言葉や反応に敏感になる
	相手の立場になって考えるということが以前よりも身についた
	相手の苦しみをいったん受け止め、受け容れ、その思いを考えてみる気持ちが芽生えた

表2-2 思考・技能・実践に関する学習成果(続き)

カテゴリー	コード
積極的に相手の話を聴こうとする姿勢	“傾聴し、相手を受け止め、共感する”というコミュニケーションを意識する
	相手の話をよく聞く
	人の話を“聞く”から“聴く”ことができるようになってきた
	積極的傾聴
	対象者を理解する話の聞き方
	相手の目を見る、相槌を打つなど積極的に相手の話を聴こうとする姿勢
	聞くだけでも十分にメンタルヘルスの向上につながると分かった
	親身になって相手の話を聴くということで、相手は楽な気持ちになれる
相手の言動の意味を考え尊重する声かけ	相手が何か語ろうとするとき、話を遮らず、最後まで聴こうという姿勢が生まれた
	相手の話を聴くとき、その情景を思い浮かべて、その人と同じ気持ちになろうという思いが生まれた
	相手の納得を考えて自分の言葉を選ぶ
自分の素直な感情を表出したり振り返ること	相手を尊重する声掛けができるようになった
	相手の言動に一喜一憂するのではなく、その真の意味をとらえる努力をすることが大切だ
	機嫌が悪い友人に対し、その理由を聞いてみることで、受け入れられるようになった
	「その時」に感じた率直な気持ちを振り返ることの大切さがわかった
演習を通して深まった家族関係	自分を受け入れられるようになった
	看護師一患者役のロールプレイを通して、自分自身そのままでも良いと思えた
ポートフォリオの書き方	自分の感情を素直に言うことで、知らないうちに肯定的な感情を抱けていることに気づいた
	演習課題で母親と向き合うことにより家族関係が深まった
ポートフォリオの書き方	ポートフォリオの書き方

表3 態度・志向性に関する学習成果

カテゴリー	コード
精神障害者の「普通に接してほしい」を聴いて変化した見方・考え方	当事者から「普通に接してほしい」を聞いて、障害者に対する偏見に気づき、見方・考え方が変化した
	障害を持つ人も皆、同じように理解してほしいと思っていることへに気づいた
	障害者と関わることで全ての人に生きる価値があるということがわかった
	“障害を理解するという事は普通に接すること”という意見を聞いて考えが変化した
精神障害者の話を聴いて変化したイメージや触発された生き方	精神の病を抱える人に対する接し方
	精神障害者当事者の力強い生き方に触発された
	精神障害者に対して、症状だけを見てその人のことを決めつけてはならない
	精神病治療の歴史について学び、当事者の話を聞くことで精神障害者に対する怖いというイメージが薄らいだ
自殺の心配がある人を心から気遣う言葉がけや人に話すことで心が軽くなる体験の意義	精神疾患当事者の話を聴いたことで自分が抱いていたイメージが変わった
	周りで起こっていることに関心を持つことで変化に気づこうとする
	自殺の話をするのは自殺に追いやってしまうと思っていたけど、そうではなく相手を心から気遣って言葉をかけることが大切だと知った
	人に話をするだけでも心が軽くなることがあるので何かあったら誰かを頼ってもいいと思うようになった
心の病を予防するために周りの人と支え合うことの意義	人は周囲の人と支えあって生きているので、もらうだけではなく与えていける存在になりたい
	心の病は誰にでもなる可能性があり、自分や周りの人が心の病にならないようにサポートしていきたい
自分にできることを実行しようとする自己意識の高まり	背伸びせず自分にできることを実行することが相手の力になる
	成人初期の発達課題を自分に照らし合わせるなど、自己意識が強まった
	考え方が少しだけ前向きになった
	心が前より豊かになった
命を尊ぶ態度	自分は何ができるのか考えた
	正しい知識と正確な技術で「私」が行うことで看護ができる
命を尊ぶ態度	命の尊さ

(2) “思考・技能・実践”に関する学習成果

“思考・技能・実践”に関する学習成果の11カテゴリーは表2-1・表2-2の通りで、[精神的健康について自分なりの考え]、[身につけた自分なりのストレス対処法]、[メンタルヘルス向上の改善策についての考え]、[自殺願望がある人への具体的な対処方法]、[プロセスレコーを活用して対象者の思いに気づいたり自分の傾向を客観的に見直すこと]、[相手の立場になって相手の思いを考える力]、[積極的に相手の話を聴こうとする姿勢]、[相手の言動の意味を考え尊重する声かけ]、[自分の素直な感情を表出したり振り返ること]、[演習を通して深まった家族関係]、[ポートフォリオの書き方]であった。

(3) “態度・志向性”に関する学習成果

“態度・志向性”に関する学習成果の6カテゴリーは表3の通りで、[精神障害者の「普通に接してほしい」を聴いて変化した見方・考え方]、[精神障害者の話を聴いて変化したイメージや触発された生き方]、[自殺の心配

がある人を心から気遣う言葉がけや人に話すことで心が軽くなる体験の意義]、[心の病を予防するために周りの人と支え合うことの意義]、[自分にできることを実行しようとする自己意識の高まり]、[命を尊ぶ態度]であった。

2) ポートフォリオの中で最も価値があるものとその理由

学生の記述を分類したところ、最も価値があると選択した資料は《身近な人のメンタルヘルスの向上の提案書》8件、《日々の授業記録》7件、《プロセスレコード》5件、《当事者参加授業記録》2件、《ゴールシート》2件、《ポートフォリオ全て》1件、《ストレス学習資料》1件であった。

さらに、これらの分類ごとの選択した理由を吟味したところ、《身近な人のメンタルヘルスの向上提案書》は18コード、4カテゴリーが生成された。《日々の授業記録》は11コード、3カテゴリーが生成された。《プロセスレコード》は9コード、3カテゴリーが生成

表4-1 ポートフォリオの中で最も価値があるものとその理由

選択資料の分類	カテゴリー	コード
身近な人のメンタルヘルスの向上提案書	対象者のメンタルヘルスを向上させる提案を自分なりに考えたから	対象とした人にとっての具体策、課題を解決するために個別性のある提案を考えた
		情報収集して情報を活用していくこと、人の言葉を受け止めることの大切さを学んだ
		実際に身近な人のメンタルヘルスについて聞いたことから自分が提案を考えた
		その人のメンタルヘルスの状態を分析し、どうすればメンタルヘルスを向上できるかしっかり考えた
	自分が提案したメンタルヘルス向上の具体策を対象者が喜んで実践したから	母を対象として、アセスメントからアプローチの実際までの一連をつかめた
		この講義の中で一番自分なりに考えて作った
		この発表の機会があったからこそ、対象者自身、少しは、メンタルヘルスの向上ができた
		対象とした母の問題点を挙げ具体案を提供したことを、母はとても喜んでくれた
	演習を通して自分の対象者への関わり方や家族を気にかける態度が変化したから	自分のことは後回しだった母が自分の身体・精神的なことと向き合うようになったことからメンタルヘルスケアをしてよかった
		対象者が私の提案した方法で自分にあうものを見つけ実践してくれている
		自分にも知識がついたし、対象者への関わり方も変わった
		聞く場面の相手の姿や自分の発問の様子なども振り返ることができた
演習発表・意見交換を通して悩んだ時に活かせる知識や助言を得たから	身近な人のメンタルヘルスの向上は初めてのとても貴重な経験だ	
	私自身も以前より母はもちろん家族の様子を気にかけるようになるなど、メンタルヘルスの向上を提供しながら、自分も成長していた	
	周りの人のメンタルヘルスの向上に向けて、これから自分が実行する時の大きな糧となった	
	他の人の発表からも様々な知識やアドバイスをもらい、今後の生活に生かせることがあった	
		発表を通して皆と意見交流が出来た
		ストレスが溜まったり、将来子供が受験で悩んだ時の対応の参考になる

表4-2 ポートフォリオの中で最も価値があるものとその理由(続き)

選択資料の分類	カテゴリー	コード
日々の授業記録	振り返って授業のポイントが分かったから	大切などころはどこか、いつ振り返ってもわかる
		その授業の中でポイントとなる部分分かる
	そのとき自分が何を学び感じたかが分かったから	毎回の振り返りや授業内容がファイリングしてあり、いつでも見られ復習がしやすいかった
		そのときどきに、自分が何を学び感じたかが分かる
	授業を通して自分が考えたこと、自分の変化・成長を見ることができたから	自分のその時の気持ちや考えが書いてあり、振り返った時に、考え方の変化や自分の傾向がわかる
		その日に学んだことは何かということが一番分かる
先生のコメントもあり、今後の改善点や対策を考えることが出来、自己の成長につながる		
その授業で何を課題にしたのか分かり、次の時まで達成できているか見返すことができ、一番最後に振り返ることで成長が分かる		
プロセスレコード	他者との関わりやその時の自分の気持ちを客観的に振り返り気づきがあったから	授業の目標の達成度、課題が授業毎に書かれている
		その授業を通して自分が何を考えたのかを振り返ることが出来、自分の変化・成長を見ることができる
		そこには学んだ内容、反省や課題、理解の程度など、自身の学修成果が表われている
		自分の関わりに対して、その時対象者役と観察役の人はどうに見ていたかを振り返ることができる
	他者との関わりを振り返り改善点を見つけたから	プロセスレコードに書いて、その時の気持ちなどを客観的にみて自分はどうな傾向にあるのか少し知ることができた
		自分と人との関わり方について知ることができた
教員からのコメントにより自信をもつことができたから	今まで自分で考えていた自分とは少し違ったということに気がつくことができた	
	感じたことが率直に書かれ、私の思いを確認することができる	
当事者参加授業記録	当事者の話は心に響き自分のあり方や考え方を見直しせから	対象者との関わりを見直して改善点を見つけ、これからの関わりに生かしていきたい
		先生からの言葉により自分の行った言動が初めて認められたと思いとてうれしかった
		先生からの言葉が自分の行動に自信をつけてくれうれしかった
ゴールシート	ビジョンとゴールを書くことで目標達成に向けてすべきことが明確になったから	先生からコメントにより自分に少し自信を持つことができた
		精神障害者授業のお話は心にひびくものばかりで自分の今までやこれからを見直す機会になった
ストレス学習資料	ストレス対処法が役に立った	実際に話に重みがあって聴けて良かった
		話を聴けたことで考え方も変わり勉強になった
ポートフォリオ全て	学習したことは全てが今後必要になるから	目標を具体的に文字にして書いておくことで、目標が明確になりその達成のためにどのようなことをすべきか見えてくる
		一番最初にビジョンとゴールを書くことで、自分がこの教材をどうしていきたいか明確になった
		日常生活の中でストレスを感じることが多い
		全てがこれからの学習や実習などに必要なものになってくる

された。《当事者参加授業記録》3 コード、1 カテゴリーが生成された。《ゴールシート》3 コード、1 カテゴリーが生成された。《ストレス学習資料》、《ポートフォリオ全て》は、それぞれ 1 カテゴリーずつであった。(表 4-1、表 4-2)

(1) 《身近な人のメンタルヘルスの向上提案書》を選択した理由

《身近な人のメンタルヘルスの向上提案書》を選択した理由の 4 カテゴリーは、[対象者のメンタルヘルスを向上させる提案を自分なりに考えたから]、[自分が提案したメンタルヘルス向上の具体策を対象者が喜んで実践したから]、[演習を通して自分の対象者への関わり方や家族を気にかける態度が変化したから]、[演習発表・意見交換を通して悩んだ時に活かせる知識や助言を得たから]であった。

(2) 《日々の授業記録》を選択した理由

《日々の授業記録》を選択した理由の 3 カテゴリーは、[振り返って授業のポイントが分かったから]、[そのとき自分が何を学び感じたかが分かったから]、[授業を通して自分が考えたことや自分の変化・成長を見ることができたから]であった。

(3) 《プロセスレコード》を選択した理由

《プロセスレコード》を選択した理由の 3 カテゴリーは、[他者との関わりやその時の自分の気持ちを客観的に振り返り気づきが広がったから]、[他者との関わりを振り返り改善点を見つけたから]、[教員からのコメントにより自信をもつことができたから]であった。

(4) 《当事者参加授業記録》を選択した理由

《当事者参加授業記録》を選択した理由は、[当事者の話は心に響き自分のあり方や考え方を直させたから]の 1 カテゴリーに整理された。

(5) 《ゴールシート》を選択した理由

《ゴールシート》を選択した理由は、[ビジョンとゴールを書くことで目標達成に向け

てすべきことが明確になったから]の 1 カテゴリーに整理された。

(6) 《ストレス学習資料》を選択した理由

《ストレス学習資料》を選択した理由は、[ストレス対処法が役に立ったから]であった。

(7) 《ポートフォリオ全て》を選択した理由

《ポートフォリオ全て》を選択した理由は、[学習したことは全てが今後必要になるから]であった。

4. 考察

1) 授業を通して成長したと思う学習成果“思考・技能・実践”について

“知識・理解”に関する学習成果として 15 コード・6 カテゴリー、“思考・技能・実践”に関する学習成果として 48 コード・11 カテゴリー、“態度・志向性”に関する学習成果として 15 コード・6 カテゴリーが生成されたということは、学生にとって精神保健論という科目は“思考・技能・実践”に関する学習内容が、“知識・理解”や“態度・志向性”に関する学習内容の 2 倍程度多かったことを意味している。精神保健論の 15 コマの授業形態は主に講義であるが、うち 4 コマ使って、学生が家族や友人を対象として情報収集し、対象者のメンタルヘルスの課題や課題解決に向けた具体的な援助方法について《身近な人のメンタルヘルスの向上提案書》として作成したものを発表している。また、2 コマは自己理解や他者理解を目的としてお互いが患者役や看護師役になりロールプレイしたことを《プロセスレコード》に記述して相互作用を振り返っている。つまり、15 コマのうち 6 コマは演習的な要素を組み入れたことから、鈴木がいうポートフォリオの 6 つの価値のうち「コンピテンシー(行動化を伴う能力)の育成と評価に役立つ」学習成果が多かったのではないだろうか。

“思考・技能・実践”の学習成果については、[積極的に相手の話を聴こうとする姿勢]は 10 コードより、[相手の言動の意味を考え

尊重する声かけ]は4コードより、[相手の立場になって相手の思いを考える力]は3コードより生成されたが、これらは対象者理解や対象者への理解的態度の技能に関するものである。一方、[プロセスレコーを活用して対象者の思いに気づいたり自分の傾向を客観的に見直すこと]は6コードより、[自分の素直な感情を表出したり振り返ること]は4コードより生成されたが、これらは自己理解や自己一致の技能に関するものである。両者はいずれも「コンピテンシー(行動化を伴う能力)の育成と評価に役立つ」と言える。また、宮崎ら³⁾はポートフォリオシートへの記述内容から学習成果を検討し、学生はポートフォリオを俯瞰することで、学生自身のメタ認知活動を促進する効果を示唆しているが、本研究で生成された、[プロセスレコーを活用して対象者の思いに気づいたり自分の傾向を客観的に見直すこと]、[自分の素直な感情を表出したり振り返ること]は、学生自身のメタ認知活動を促進させていると言える。

2) ポートフォリオの中で最も価値があるものとその理由について

《身近な人のメンタルヘルスの向上提案書》が8件と最も多かったこと、その理由[対象者のメンタルヘルスを向上させる提案を自分なりに考えたから]、[自分が提案したメンタルヘルス向上の具体策を対象者が喜んで実践したから]、[演習を通して自分の対象者への関わり方や家族を気にかける態度が変化したから]、[演習発表・意見交換を通して悩んだ時に活かせる知識や助言を得たから]は、まさに鈴木¹⁾がいうポートフォリオの6つの価値のうち「コンピテンシー(行動化を伴う能力)の育成と評価に役立つ」に関連しており、学生が主体的に行動を起こして得られた学習成果があったと言える。

《日々の授業記録》は7件と次いで多かった。その理由[振り返って授業のポイントが分かったから]、[そのとき自分が何を学び感じたかが分かったから]、[授業を通して自分が

考えたことや自分の変化・成長を見ることができたから]は、鈴木¹⁾がいうポートフォリオの6つの価値のうち『成長』の可視化ができる」に関連し、学生は15コマの授業記録を時系列で俯瞰することで自分の変化・成長を見ることができたと言える。

《プロセスレコード》は5件で、その理由[他者との関わりやその時の自分の気持ちを客観的に振り返り気づきが広がったから]、[他者との関わりを振り返り改善点を見つけたから]、[教員からのコメントにより自信をもつことができたから]は、鈴木¹⁾がいうポートフォリオの6つの価値のうち『思考パターン』が理解できる」に関連し、学生は自己を客観的に見たり、教員からのポジティブ・フィードバックにより自己を多面的に見ることができたのではないだろうか。

《当事者参加授業記録》は2件であるが、その理由[当事者の話は心に響き自分のあり方や考え方を見直せたから]は、学生はこれまで精神障害者の話を聞く体験を持っていなかったが、今回授業として直接話を聞く機会を持ち、自己の『思考パターン』の変化を体験したのではないだろうか。

5. 結論

研究協力に同意が得られた学生のうち、ポートフォリオに自己成長報告書の記載があった26名について、授業を通して成長したと思う学習成果、ポートフォリオの中で最も価値があるものとその理由を分析し、以下の知見を得た。

1) 授業を通して成長した“知識・理解”に関する学習成果は、[精神的健康の考え方・心の病の予防についての理解]、[メンタルヘルスの課題についての理解]、[災害援助者のストレスと重症化を予防する対処法の理解]、[自殺問題の背景・自殺願望がある人の心理・自殺予防の援助方法の理解]、[相互作用を考慮したコミュニケーション能力の大切さ]、[看護師の対応のし方・考え方の理解]の6カテゴリーであった。

2) 授業を通して成長した“思考・技能・実践”に関する学習成果は、[精神的健康について自分なりの考え]、[身につけた自分なりのストレス対処法]、[メンタルヘルス向上の改善策についての考え]、[自殺願望がある人への具体的な対処方法]、[プロセスレコーを活用して対象者の思いに気づいたり自分の傾向を客観的に見直すこと]、[相手の立場になって相手の思いを考える力]、[積極的に相手の話を聴こうとする姿勢]、[相手の言動の意味を考え尊重する声かけ]、[自分の素直な感情を表出したり振り返ること]、[演習を通して深まった家族関係]、[ポートフォリオの書き方]の11 カテゴリーであった。

3) 授業を通して成長した“態度・志向性”に関する学習成果は、[精神障害者の「普通に接してほしい」を聴いて変化した見方・考え方]、[精神障害者の話を聴いて変化したイメージや触発された生き方]、[自殺の心配がある人を心から気遣う言葉がけや人に話すことで心が軽くなる体験の意義]、[心の病を予防するために周りの人と支え合うことの意義]、[自分にできることを実行しようとする自己意識の高まり]、[命を尊ぶ態度]の6 カテゴリーであった。

4) ポートフォリオの中で最も価値があると選択した資料は、《身近な人のメンタルヘルスの向上の提案書》8件、《日々の授業記録》7件、《プロセスレコード》5件、《当事者参加授業記録》2件、《ゴールシート》2件、《ポートフォリオ全て》1件、《ストレス学習資料》1件であった。これら選択ごとの理由は《身近な人のメンタルヘルスの向上提案書》は4 カテゴリーが生成された。《日々の授業記録》は3 カテゴリーが生成された。《プロセスレコード》は3 カテゴリーが生成された。《当事者参加授業記録》は1 カテゴリーが生成された。

6. 研究の限界と今後の課題

本研究への同意と有効回答が得られた学生は26名と少なかった。これは成績が確定してから

研究協力への説明となり、授業終了から9カ月が経過したことが影響しているのではないだろうか。その後も、精神保健論では継続してポートフォリオを活用し、自己成長報告書を作成しているが、本研究の成果とほぼ同様の傾向を示している。今後は、自己成長報告書の①、②の分析ならびにゴールシートの分析を進めることにより、精神保健論でポートフォリオを活用することの「目標達成を叶える」や「数量化できない評価ができる」価値についても検討できるのではないだろうか。

謝辞

今回、研究にご協力くださいました山梨県立大学看護学部5回生の皆様に、心より感謝申し上げます。諸般の事情により、皆様への本研究の成果報告が大幅に遅れましたことを心よりお詫び申し上げます。

この成果は、今後の精神保健論の授業のさらなる発展に活かしていく所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 鈴木敏恵: ポートフォリオが看護教育を変える! 看護教育,48(1),10-17,2007.
- 2) 安川仁子: 看護教育におけるポートフォリオの活用,学習プロセスを重視した評価,看護教育,48(1),18-23,2007.
- 3) 宮崎貴子,岩田みどり: PBL・テュートリアル教育におけるポートフォリオシート導入の試み,記述内容からみた学習項目・ポートフォリオシートの有効性の検討,日本赤十字武蔵野短期大学紀要,19号,31-36,2006.
- 4) 岩田みどり: PBL・テュートリアル学習のポートフォリオシートからみた学習成果,プレゼンテーションに関する考察,日本赤十字看護学会誌,1号,35-41,2009.
- 5) 前田由紀子,増田安代: 精神看護学におけるグループワークの学習効果に関する検討,研究的思考と研究スキルの基礎的育成にむけての試み,九州看護福祉大学紀要,1号,113-124,2006.
- 6) 鈴木敏恵: ポートフォリオ・プロジェクト学習で実現する!看護師の実践力と課題解決力,医学書院,2010.

<資料>

1. 精神保健論 科目のゴールシート
 2. 精神保健論 日々の授業記録
 3. 精神保健論 自己の成長報告書
 4. 研究への協力の説明書・同意書
- 参考資料 2010 年度精神保健論シラバス

(資料 1)
年 月 日 作成

「精神保健論」授業のゴールシート

(学籍番号) 氏名

<科目のゴール>…(参考として)

1. 人間の心の健康について機能や発達を基盤として理解する。
2. 生活の場のメンタルヘルスの現象や要因、心の健康への影響や解決の方向性について理解する。
3. 社会生活を営む人間のメンタルヘルスについて危機理論を用いて理解する。
4. 今日的課題として、大学生にできる自殺予防について考える。
5. 身近で大切な人のメンタルヘルスの向上について、情報収集して課題を検討し、解決のための提案書を作成して発表する。
6. 精神保健医療福祉の課題について歴史や制度から理解する。
7. 援助者としての自己理解や自己活用の方法について体験的に理解する。
8. 治療における対象者を理解する方法について体験的に理解する。
9. 地域で生活する精神障害者当事者との出会いや語りから、援助者に求められる課題を考える。

ゴール(目標)

ビジョン(目的)

理由

(資料 2)
年 月 日 () 限

「精神保健論」日々の授業記録

*授業翌日 13 時までに、BOX No.3 に提出下さい。 学籍番号() 氏名

<本授業の目標> *事前配布の学習プリントを参考に、目標を立てて授業に臨んでください。

<本授業で学んだこと> *返却しますので、ノートとして自由に活用してください。(裏面へも)

<自己評価> *目標の達成状況や今後の自己の課題となることを、記入してください。

(資料 3)
年 月 日 作成

「精神保健論」自己の成長報告書

(学籍番号) 氏名

*提出は、ポートフォリオに挿入して、定期試験後～8月13日(金)13時の間に、213 研究室まで。

1. この授業を受け、あなたの健康や看護についての考え方は、どのように変化しましたか。
2. この授業で得たことを、普段の生活や活動、今後の学習などにどのように活用しますか。
3. あなたが成長したと思う内容*を3つ挙げてください。
*考え方の変化、成長したこと、身につけた能力など、何でも構いません。
 - ①
 - ②
 - ③
4. あなたのポートフォリオの中で、最も価値があると考えたものは何ですか。また、そのように考えた理由は何ですか。

平成 23 年 4 月 12 日

3 年生の皆様へ

「精神保健論にポートフォリオを導入した成果の検討」への協力のお願い

2 年次前期の授業「精神保健論」では、よりよい授業づくりを目指してポートフォリオを導入しました。

よりよい授業とは、教師が示した科目目的・内容などを参考に、学生が主体的にビジョンやゴールを決め、関心をもって自主学習に取り組みたり、予習を通して目標を持って積極的に参加する授業のことと考えています。

そこで、今回ポートフォリオを導入した精神保健論において、皆さんが作成した「日々の授業記録」、「自己成長報告書」を研究者らで分析し、どのような成果があったかを検討することとしました。

皆さんに分析の承諾をお願いしたいシートは、次の 2 点です。

- ① 「日々の授業記録」
- ② 「自己成長報告書」

本研究への協力の有無は、成績には全く影響しません。例え、協力に同意した後であっても、途中から協力を辞退することもできます。学会等の発表や報告書の作成にあたっては、学生個人の名前を掲載しないことも約束します。

以上について、協力していただける人は、本用紙の同意書欄に署名し、平成 23 年 4 月 22 日(金)までに、池田事務室ボックス№7 に、提出をお願いします。

併せて、精神保健論ポートフォリオを、4 月 28 日(木)までに、212 研究室前のボックスに提出をお願いします。

山梨県立大学 看護学部
精神看護学領域 代表者 清水恵子

協力への同意書

私は、上記の「精神保健論にポートフォリオを導入した成果の検討」への協力のお願いについて説明を受け、協力することに同意します。

同意の年月日: 年 月 日

協力者: (学籍番号) 氏名

(参考資料) 2010年度シラバス

精神保健論					
科目名	精神保健論				
担当者	清水恵子 進美一恵				
開講期	前期	履修年次	2年	必修選択別	必修
単位数	2単位	時間数	30時間	講義	
【科目の目的】					
人間の心の健康について機能や発達を基盤として理解するとともに、社会生活を営む人間のメンタルヘルスについてはストレスとその対処行動ならびに生活の側面からも理解し、メンタルヘルスの危機的状況とその介入について演習を通して学修する。また、援助者としての自己理解の方法について体験的に学修する。					
さらに、精神保健医療福祉について法的制度を含めた変遷を概括し、今日的課題を理解する。					
【授業内容】			【教育方法】		
1. オリエンテーション、心の機能(含むPTSD)			1. 授業ポートフォリオ(含む自己成長報告書)を作成する		
2. 心の発達と心の健康			2. 事前に配布する教員作成の学習資料に基づき予習する		
3. 生活の場における日常・非日常のメンタルヘルス			3. 授業には自ら目標を立てて参加し、実施・評価する		
4. 危機理論			4. メンタルヘルス演習では「身近で大切な人のメンタルヘルスの向上」を共通テーマに一人ひとりが提案書を作成し発表する		
5. 生活の場におけるメンタルヘルス演習(個人ワーク)			5. 自己理解演習では対人関係のロールプレイ場面を振り返り、自己の傾向を知るような体験学習を実施する		
6. 自殺予防			6. 当事者参加授業では精神障害者当事者をゲストとして招聘し語りを聞き交流する		
7. 生活の場におけるメンタルヘルス演習(個人ワーク)			7. 対象者理解演習ではロールプレイを通して対象者の精神状態ならびに対象者の思いを解釈するような体験学習を実施する		
8. 生活の場におけるメンタルヘルス演習(チーム別発表)			8. 必要に応じてビデオ教材を視聴する		
9. 生活の場におけるメンタルヘルス演習(チーム別発表)					
10. 精神保健医療福祉の歴史					
11. 精神保健医療福祉の制度					
12. 治療の場における対人関係と援助者としての自己理解					
13. 援助者としての自己理解演習					
14. 当事者参加授業					
15. 治療の場における対象者理解演習					
【評価方法】					
1. 課題レポート 40% 2. 学期末試験 60%					
【必須図書】					
吉松和成編『精神看護学Ⅰ、精神保健学』(ヌーヴェルヒロカワ)					
【参考図書】					
授業の中で適宜紹介する					
【履修上の注意】					
本科目は、精神看護学実習Ⅰの履修条件となっており、必要な看護技術の体験的学修が含まれます。					
【学生へのメッセージ】					
このたびの東北・関東大地震により多くの被災者は身近で大切な人のいのち、家、家財、思い出の品を失い、「からだ」そして「こころ」に大きな打撃を受けています。救援する人々も困難な中、同様に「こころ」を痛めながら活動にあたっています。すなわち、この未曾有の自然災害により被災者も救援者も、そして全国で支えに携わる人々、日本人全てがまだまだ震かんの中にいます。しかし、過去の震災からの復興が希望を示してくれていることを思い出し、どうすれば奪われた日常生活が一刻も早く取り戻せるかについても、考えられる授業にしていきたいと思えます。					
さらに、精神保健医療福祉の歴史を知り、また精神障害者をもつ当事者の語りや交流を通して、精神医療や精神看護に興味・関心を持ってほしいと願っています。					

Examination of the Learning Effects of Portfolios Adopted to a Mental Health Theory Course

SHIMIZU Keiko, ATSUMI Kazue, YAMADA Mitsuko, NOZAWA Yumi

key words: mental health theory course, portfolios, learning effects